

秋田市の先人たち

農民文学の第一人者

伊藤 永之介

明治三十六（一九〇三）年生

昭和三十四（一九五九）年没

西根小屋末町（中通五丁目付近）生まれ



主な事蹟

昭和六年、小説「万宝山」を雑誌「改造」に発表して認められた。その後、「梟」^{ふくろう}、「鴉」^{からす}、「鶯」^{うぐいす}などの鳥類ものと呼ばれる作品で、戦前の東北農村を舞台にユーモラスな説話体で描き、新しい農民作家となった。戦後の代表作には、映画にもなった「警察日記」などがある。